

とよなか 環境



ニュースレター

発行：NPO法人とよなか市民環境会議アジェンダ21
発行責任者：塩見 光夫
連絡先：豊中市中桜塚1-24-20
環境交流センター内
Tel:06-6844-8611 Fax:06-6844-8668

この号のハイライト

P.1 総会/P.2~3 自然部会・
地球温暖化対策プロジェクト/
P.4 花と緑/P.5 事業部会・環
境と私/P.6 生活部会/P.7 豊中
市/P.8 スケジュール

2022年（令和4年）夏号 NO. 76 （通巻第94号）

2022年度総会を開催しました

6月27日、環境交流センターにて2022年度アジェンダ21の総会が開催されました。3年ぶりに緊急事態宣言の発出がなかったものの、市民環境会議総会や記念講演はありませんでした。

会員数158人中出席41人、委任状79人の計120人で総会が成立し、理事5人と監事2人が新たに選出され、これにより役員は理事14人、監事3人となりました。また総会後の理事会にて理事長は塩見光夫理事が再任されました。なお齋藤明理事と渋谷昭宏理事、新開悦子監事は退任されました。長い間ありがとうございました。



●新理事



井原 美香さん 川島 芳廣さん 西村 裕さん 野崎 浩二さん 和田 友宏さん
〈生活協同組合 コープこうべ 大阪北地区本部〉 〈合同食品株〉

●新監事



荒堀 尚さん 伊藤 格さん
〈大阪ガス株〉

（五十音順）

~~~~~塩見理事長より皆さまへ~~~~~

この2年半余りコロナ禍でいろんな活動が縮小、延期、中止になりましたが、徐々に制限も解除され、なんとか日常が戻ってきた感じです。コロナ禍では対面の会議や講演会などができなくなった反面、ウェブ会議などIT技術を活用した活動スタイルが定着しました。遠くの方でもセンターにアクセスでき、行事や活動に参加していただけるようになりました。

課題である若い会員の獲得に向けてもツイッター、フェイスブック、インスタグラムなどのSNSを利用して活動内容の発信を強化していきます。ま

たHPなどの内容も魅力あるものにしてアジェンダ21への興味を喚起します。そのために4月より新たなアルバイト職員が加わりました。

さて、昨年は部会・プロジェクトの色々な活動に参加させていただき、改めてアジェンダ21の活動を誇りに思いました。会員の皆様もぜひ機会を作って参加されることをお勧めします。他の部会・プロジェクト活動を知る意味でも、会員同士のコミュニケーションや懇親を図る意味でも有意義なことだと思います。これからも一緒にアジェンダ21の活動を充実させていきましょう。



兎川合流部の落差工



西願寺橋下流（地点B）のスロープ

調査に当たって

昨年度の身近な生き物調べは、天竺川の生物調査を実施しました。天竺川は豊中市の中央を縦貫する7.6kmの一級河川ですが、市民にはどれくらい知られているのでしょうか。私たちもどんな生き物が住み、どのような川であるのかあまり知見がありませんでした。これを契機に、より天竺川のことを知り、親しみを持てるようになることを期待して調査を実施しました。

調査は春から実施予定でしたが、コロナの影響で生物調査は夏と秋の2回になりました。現地調査は中天竺橋下流（地点A）、西願寺橋下流（地点B）で行いました。そのほか、桃山台付近から神崎川に合流する河口部まで川沿いを歩き、構造物や見かけた動植物を記録しました。

植物種数確認表

	全体	地点A	地点B
在来種数	86	64	48
外来種数	74	63	34
計	160	127	82
外来種の占める割合	46%	49%	41%

植物調査結果

地点Aの方が地点Bより多くの種が確認されました、これは地点Aのほうが、地点Bより複雑な河川形状となっているためと考えられます。

外来種の比率は両地点共かなり高い比率となっており、他の都市河川同様の傾向にあります。特に地点A付近では周辺で園芸花の栽培が盛んで、

その逸出・野生化した影響が出ているかもしれません。

水生動物調査結果

確認種は2地点あわせても非常に少ない結果となりました。

下流の地点Bではオイカワが成魚・稚魚ともに多く生息していましたが、上流の地点Aではまったく確認されませんでした。これは兎川合流部（夕日丘）に魚類が遡上できない落差工があり、かつ平坦で浅いコンクリート底の区域が連続しているためと考えられます。

また特定外来生物のヌートリアが餌付けによって繁殖しているとみられる場所もありました。

河川概要調査結果

現地調査では、桃山台付近から河口部まで川に沿って歩きましたが、両岸がほぼ垂直に立つ護岸で、水路に降りるための設備は西願寺橋下流左岸に1箇所スロープがあるのみで、しかも普段は入口に鍵がかかっているため、市民が河川に自由に近づける場所は1箇所もありませんでした。また落差工等の横断構造物は兎川合流部から下流で21箇所ありました。

服部緑地付近から下流では立派な松並木となっており、風致地区に指定されています。

今回の調査は、調査地点や時期など、非常に限られていて詳細な調査とはなりませんでした。天竺川の特徴や問題点などを知るよい契機となりました。今後、より具体的な提言につながる調査を継続していきたいと思いました。（柿本修一）

田んぼビオトープの生き物調べ

地下水をくみ上げて水路に流し、田んぼや池もあり、豊中の里地を再現して色々な生き物が住めるように工夫した「ふれあい緑地ビオトープ」で6月19日に自然ふしぎ発見クラブを開催しました。参加者は子ども9人、大人11人、スタッフ5人の計25人です。



時折り飛行機の騒音がする中、手に手に虫網や虫かごを持って原っぱに移動。目の前のチョウを追いかけて走り回ると、虫かごの中にはチョウやトンボ・バッタが。声がかかってチョウと食草の看板の前に集合し、それぞれのチョウが決まった草や木の葉で育つことを確認。ジャコウアゲハ用にはウマノズクサが植えてあるとのこと。

水分を取り一息ついて、魚用の網を持って田んぼや小川に移動。草刈りした畦を歩いて水の中のをぞき込んで貝やエビを捕まえていました。

最後にビジターセンターの中でみんなが捕獲した生き物を見せ合い発表しました。チョウ7種類、トンボ5種類、バッタ2種類、クマバチ等。

水辺ではドジョウ、トノサマガエルのオタマジャクシ、カワニナ、エビ等11種類を確認し観察会を終えました。

ビオトープは誰でも自由に利用でき、一般の親子も20人あまり来て賑わっていました。安全に観察でき親しみあるビオトープを守り育てて欲しいと思います。(馬淵康子)

地球温暖化対策プロジェクトからのお知らせ

とよなか ゼロカーボン スタンプラリー

COOL CHOICE

カーボンニュートラルの実現に向けて、
未来のために、今選ぼう。



ゼロカーボンアクションに参加して スタンプをゲットしよう!

市民向け地球温暖化対策事業の新しい企画、「とよなかゼロカーボンスタンプラリー」が始まります。

アジェンダ活動や環境交流センターの行事など、対象の取組みに参加するとスタンプがもらえ、スタンプを3つ以上集めると、エコポイントチケット「とよか」がもらえます。

「ゼロカーボンアクション」とは、暮らしを脱炭素化するアクションです。CO₂などの温室効果ガスの排出量削減のために、日々の生活の中で脱炭素社会づくりに貢献する、あらゆる「賢い選択：COOL CHOICE」をしていこうと、環境省が啓発している取組みです。

豊中では、地球温暖化対策事業をはじめとする、ゼロカーボンアクションに該当する様々な取組みが実施されているので、そういった取組みに参加した人にスタンプカードをお配りし、スタンプを集めてもらうことで、いろんなゼロカーボンアクションを体験してもらいます。

※スタンプカード配布期間：9月～12月まで(予定)





小学校給食の調理くずや児童の食べ残しに剪定枝などを混合して約3か月間発酵・熟成させる土壌改良材「とよっぴー」の製造は昨年度末で20年の歳月が経ちました。

約3年間におよぶ食品残渣の堆肥化実験を行って成果を得ているものの、2002年4月にスタートした「緑と食品のリサイクルプラザ」事業の成否は未知数の要素もありました。製造は市が、生成品の有料販売や地域内での資源循環活動は花と緑が一手に引き受ける協働とパートナーシップを基軸に開始した事業です。

最初の農園125㎡

市民の皆さんや都市部の農業に勤しむ農家の方々に利用していただくためには、自らが製造された「とよっぴー」の有効性を確認することが前提、と作物づくりに挑戦することになり、設けたのが「とよっぴー農園」です。2004年まで会員である箕面在住の柳沢俊治さんの畑を「とよっぴー農園」に指定して「イチゴ狩り」や作物づくりを体験する活動を行いました。現地との距離問題等もあり、翌年、製造施設の西側125㎡を借用して「ジャガイモ里親制度」を開始したのが農園活動、本格化の端緒です。

お米づくりへ

「ミニミニ田んぼ」から「ミニ田んぼ」

過ぐること17年、農園面積と農体験活動は驚くほどの進化を遂げて現在に至っています。製造施設を取り囲むように、2008年「ミニミニ田んぼ」を手造りで完成。2012年には12㎡の「ミニ田んぼ」に昇格、お米づくりを続けています。農園は、東から西、南、北へ広がり1,000㎡まで拡張、現在は1,200㎡となり製造施設と「とよっぴー農園」は不離一帯の関係を保つようになりました。



左から、ナス、じゃがいも、へちま。他にも色々育てています!!

「とよっぴー」の継続活用が畑にどのような効果があるのか検証することが主眼でした。

しかし、その目的を活かす手段として採用した作物づくりを市民の手で行うことに着目して、栽培技術を学ぶとともに栽培支援として「農園楽」や「野菜栽培げんき塾」の開校、「親子で学ぶ畑の楽校」や現在も続けている「米っこ芋っこ」など多様な人々が農体験できる活動に広がり続けています。

これらは市の理解や畑の開墾から長い年月、中心的に日々の農園管理に係わってきた会員の苦勞の賜物です。約250㎡に拡張した西農園開墾に際しては1mほどの土壌の掘り起こしと瓦礫の撤去を行い、最後には造園業者に重機材の支援までいただいて農地にしたこと忘れられません。

一番人気の「サツマイモ」収穫、今年はフェスタで実現を

サツマイモ栽培、本年度は約900株を育てています。サツマイモは連作障害が少ない作物と言われます。2012年から10年、毎年同じ場所で栽培しています。収穫の後は土壌改良のため「とよっぴー」を投入しています。土壌は団粒効果（保水性や排水性）が決めてと言われますが、毎年、子どもたちが歓声をあげるサツマイモ栽培は、「とよっぴー」の効果を改めて実証しています。ちなみに、「とよっぴーフェスタ」最大のイベントであるサツマイモ収穫行事、ウイズコロナの試みとして今年は10月15日（土）9:00～12:00、緑と食品のリサイクルプラザにて実施予定です。

新たな展開を注視

四季折々、旬の野菜を育てる苦勞は並大抵ではありません。無農薬・減化学肥料で育成する「とよっぴー農園」は貴重な場所としてあり続けたいものです。

市では、「原田緩衝緑地構想」において堆肥製造や「農園」活動で新たな展開を示しています。今後のことは分かりませんが、これまでの活動が連綿と続くか注目していきます。（中村義世）



ミニ田んぼ



事業部会

ホームページはじめました

～豊中SDGsネットワークで仲間づくりと情報交換を加速～

昨年、緊急事態宣言下で環境交流センターに集まらない中、Zoomの使い方を学びながら、リアルとインターネットを併用して事業者向けにSDGs勉強会を主催し、活動してきた事業部会が直面した課題は、次の3点でした。

①2030年のゴールに皆で到達するには、一緒にSDGsを進めていける多様な属性の仲間が、より多く必要であること。

②現在、豊中の事業者や各種団体のSDGsに関する活動等をまとめたホームページ（HP）やデータベースが存在せず、市役所や商工会議所では組織の性質上、それを作るのは難しいこと。

③①②を踏まえて、それができる立場で、そこに手が届く実行力があるのは私たち事業部会であること。

この経緯で独自ドメインを取得し、この度HPを作成・運用開始しました。

ロゴマークは「多くの人々がともに手を携える」ことをイメージしたものです。名称は「勉強会で学んで実践に繋げる」「SDGsを中核として、多様な属性の人々が分野を超えて多種多様な強みを持ち寄り、地域の課題解決やビジネス化に導く」という活動の主旨が伝わるよう、「豊中SDGsネッ



ホームページの
ロゴマーク

トワーク」としました。HPでは、活動実績や今後の勉強会の日程、一緒に活動する仲間になった事業者や団体の情報等を掲載しています。また速報性のあるニュースを発信するために、Facebookも活用しています。

私たちの直近の課題は予算不足です。「使ってもらえる魅力あるコンテンツ」としてHPの価値を高めるには、多数の

写真や動画を掲載可能なサーバー容量が必要です。またZoomの有料サービスを利用し、セミナーを録画し後日でも視聴できる体制を整えて、「学びの場と参加の機会を守り、歩みを止めない」ことを実現したいです。

この活動を持続可能なものにするために会員の皆さんにご理解と応援を頂けたら幸いです。皆さん、是非一度ご覧ください。そして面白味を感じたら、是非いっしょに活動しませんか？

（中村崇之）

こちらからHP内の活動案内のページをご覧ください。



環境とわたし

《 67 》 武 洋捷さん
竹炭プロジェクト

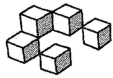


この竹炭プロジェクトに参加して7年がたちました。このプロジェクトを知ったのは千里中央公園を散歩中でした。炊さん場を通りかかると、煙が上がっているのに遭遇し、何事か？とのぞいていると、丁寧な説明をしていただきました。元々このようなことに興味があったのでその日のうちに入会の手続きをしました。

最初は何をしていいかわかりませんでしたが、今は公園の竹林の整備をはじめ、竹炭焼きや竹酢液の収集、間伐材の竹で作った竹製品の地域

の皆さまへの提供、地域の子もたちへの自然工作の指導など千里の自然に接することができ、充実した日々を過ごしています。

また間伐した竹を利用した干支の置物も酉から今年の寅まで6種類を製作しました。残り卯から申までの6種類を目標にこれからも日々の活動を頑張っていきたいと思います。



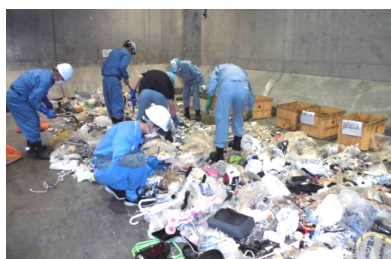
豊中の不燃ごみがよく燃えている！展示



「今度は上新田や！」電話を取った職員が、大きな声で叫んでいる。蛍池、庄内に続いて3件目。同日のほとんど同時刻に、不燃ごみを回収していた3台の収集車が、火を噴きました。「火元はスプレー缶か？バッテリーか？」「今度もバッテリーらしい」。そう、火災の原因の主演はスプレー缶から充電式電池に変わってきたのでした。

一方、不燃ごみを持ち込むクリーンランドでは数字上では毎日2回以上、多い時は16回も発火しています。このことを多くの人に知ってもらいたい。展示の動機は単純な理由でした。

これを知ってもらうにはどう工夫すればよいか。文字だけでは、恐ろしさが伝わらない。そこでまず、発火の原因（リチウムイオン充電電池）をごみの中から集めることから始めました。電気カミソリ、デジタルカメラ、電子タバコ、電動歯ブラシ、ハンディ掃除機、スマートフォン、モバイルバッテリー、コードレスイヤホン、手持ちの扇風機などなど、今や生活する上で欠かせないコードレスの製品ばかりです。特にびっくりしたのは、古いモバイルバッテリーが膨れて破裂寸前の状態で数個見つかったことです。



不燃物が混ざっていないか点検

次に過去に火災が起こった場所、時期、原因を地図に落とし込みました。以前は市内の北部に集中していたのが、全市にわたり起こっていることが分かります。

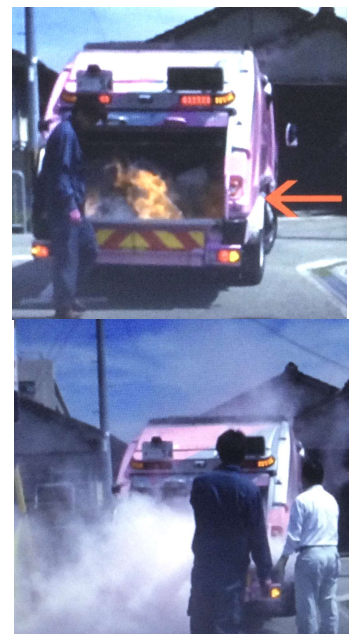
次に過去に火災が起こった場所、時期、原因を地図に落とし込みました。以前は市内の北部に集中していたのが、全市にわたり起こっていることが分かります。

モニターでは収集車から実際に火が噴出した映像、クリーンランドのごみピット内での火災風景、機械内で爆発する映像を流しました。見ていると背筋が寒くなるものばかりです。

続いて拾った小型家電をグループごとに展示し、説明文を書き、最終的に電池類や30cm未満の小型の家電は回収拠点（環境交流センターにも設置）へ持って行き、不燃ごみに出さないように。このことで結びました。

アンケートでは15人中、8人が小型の家電を、10人が電池類を回収拠点に持って行っています、との回答がありました。私たちの生活上便利な商品が、収集・処理の過程で危険な物に変わることはよくあることです。その便利な物がどのように集められ、どのように処理されるか、イメージすることが車両火災を減らす一歩ではないでしょうか。

（豊中市家庭ごみ事業課・生活部会 池田一夫）



とよなか環境TVより（静止画面の切り取り）

クールスポットでひと涼み



- 熱中症対策として、休憩できる場所を「クールスポット」に設定（市有施設約70か所）
- 施設は、室温26℃を目安に設定し、快適な空間を提供

市では、熱中症対策として、市民のみなさまが一時的に暑さから逃れ休憩できる場所を「クールスポット」として位置付けています。

「クールスポット」（市有施設約70か所）では、室温26℃を目安に設定し、快適な空間を提供しています。夏の暑い日、お出かけ途中で熱中症になりそうな場合はクールスポットでひと涼みできますのでご利用ください。

お出かけの際は、紫外線対策と水分補給を心掛け、熱中症に注意して下さい。



このステッカーが目印！



★以下の施設には、マイボトルに対応した給水機も設置してあります。同スポットの利用と併せて、熱中症の予防にご活用ください。

市役所第二庁舎、庄内出張所、千里文化センター、中央公民館、蛍池公民館、環境事業所

地球温暖化による気候変動の影響に対し、被害を回避、低減するための「適応策」のひとつとして実施するものです。

🍷 スケジュール 🚢

詳しくはホームページや広報とよなか、環境交流センターのおしらせなどをご覧ください。また新型コロナウイルス感染拡大防止のため、行事が中止や延期になる場合があります。事前のご確認をお願いいたします。

竹炭焼き、竹の間伐体験

千里中央公園

ほぼ毎月開催 詳しくは事務局まで



子ども服の回収& 絵本の回収

9月6日(火)～30日(金)

環境交流センター



とよびー地産地消採りたて野菜市

毎月第4木曜日(祝日の場合はお休み)

10:00～売切れまで

さわ病院



自然学習講座 ホントは外来種? 豊中のドジョウの出身地

10月23日(日) 14:00～16:00

環境交流センター

40人

10月21日(金) 締切、先着順



おもちゃ病院

毎月第2土曜日 10:00～11:30

環境交流センター

1世帯1点まで、修理費実費



機密書類リサイクル

10月6日(木)

クリーンランド

9月29日(木) 締切



とよびーの有料配布

9月10日(土)、28日(水)

10月8日(土)、26日(水)

10:00～11:00

緑と食品のリサイクルプラザ



とよなか市民環境展 2022

11月25日(金)・26日(土)

豊島体育館(詳細は後日発表)



編集室から

▼ろくに雨が降らないうちに梅雨が明けてしまった。それに合わせてクマゼミも初鳴き。例年より1カ月近く早く、これから猛暑が続くと思うと気が重い。国会も地方議会も温暖化防止策を着実に前進させてほしい。(R)

▼“あたりまえ”と思っていた生活や行動が突然奪われる経験をした。怪我による入院、その後の体調不良。でもアジェンダには私が帰っていく場、待っていてくれる友がいた。温かく心優しい多くの人たちのお陰で、また一歩踏み出せた事をありがたく思っている。(E)

▼6月になってピオラを片付けていたらツマグロヒョウモンの幼虫が1匹。飼育箱にピオラといっしょに入れていたら1週間でサナギになり、6月下旬に羽化した。この春アゲハもキアゲハも羽化したが、アオムシだけは、背中からコマユバチのサナギが。(M)

▼七夕の菓立ち、孫達と過ごした日々を懐かしむ。ドキドキ、ハラハラを楽しみつつ、ポチポチと努めたい新参者です。(H)

▼子どもを寝かしつけたあと、YouTubeで動画を見るのが日課になっています。好きな芸能人の公式チャンネルや、トレーニング動画等、気づけば日付をまたいでいることもしばしば。この十数年で、娯楽のかたちが大きく変わったなと改めて実感しています。(K)

▼月が変わる→何らかの食品が値上がり、がセットになってしまったこの頃。自給率が低いことに何ら対策を講じて来なかったツケもあるだろうが、生産者やメーカーの努力で安く抑えられていたのも確か。高くなることで食品ロスが減っていけばいいのだけれど…はてさて?(T)

《広報チーム》

R 柿本、E 新開、M 馬淵、H 木村、K 小浴、T 村上

とよなか市民環境会議アジェンダ21

TEL:06-6844-8611

Eメール:jimukyoku@toyonaka-agenda21.jp

https://toyonaka-agenda21.jp/

豊中市立環境交流センター

https://kankyokoryu.jp/